

(株)鳥取再資源化研究所、官民連携事業で JICA と契約

－モロッコの乾燥地農業に鳥取発の技術－

国際協力機構(JICA)は、株式会社鳥取再資源化研究所(鳥取県東伯郡、竹内義章代表取締役)と「モロッコ王国乾燥地節水型農業技術普及・実証事業」の業務委託契約を締結しました。

採用されたのは、同社が鳥取大学乾燥地研究センターと共同開発した土壤改良材「ポーラスα」。

「ポーラスα」は、廃ガラスと貝殻を原料とする多孔質ガラス発泡材で、土壌中に混合することで、細孔に水が貯えられ保水性が高まり、農業の節水化につながる仕組み。細孔の空気層が植物の生育に好影響を及ぼし、収量拡大も期待できます。土壌への環境負荷がなく、“シンプルで安全な節水農業”が特徴で、国内外に販売実績があります。

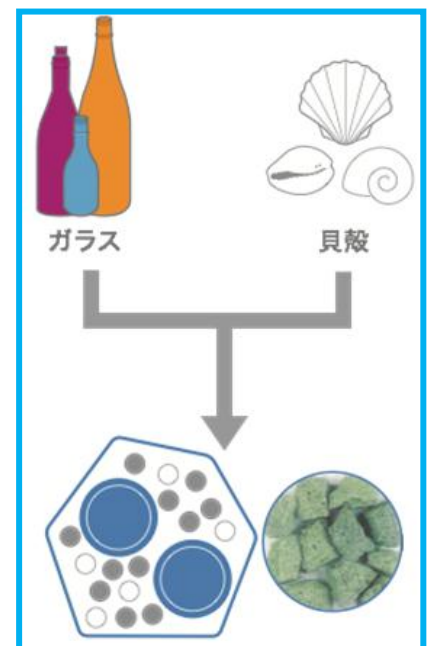
本事業では、野菜栽培の中心地であり、灌漑システムが整備されているものの深刻な水不足で農業活動が停滞しているモロッコ中部のスス・マッサ地域を対象に、ポーラスαを使った節水型灌漑農業の有効性を実証し、その普及を目指します。モロッコが抱える慢性的な水不足による農業用水利コストの削減と収量拡大による所得向上が期待されます。

同社は、本事業を足掛かりに、モロッコ全土、さらには乾燥地農業が盛んで節水対策のニーズが高いアフリカ・中東地域をターゲットに、ポーラスαの市場参入を目指します。

6月から現地活動を開始。7月にはモロッコ政府関係者が来日し、鳥取大学でポーラスαの活用技術の研修を行う予定です。契約期間は2017年11月までとなっています。

『普及・実証事業』は、ODAによる中小企業海外展開支援事業の1つで、日本の中小企業が持つ製品・技術が途上国の開発に有効であることを実証し、現地への適合性を高め、普及を図ることを目的としています。

途上国への貢献と共に、鳥取県の乾燥地研究を活かした県内産業の高付加価値化で地元経済の活性化につながることを期待されます。



土壤改良材「ポーラスα」

以上